

おーぶん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌「おーぶん第99号 2024冬」

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぶん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

皆様、明けましておめでとうございませう。毎年のこととはいえ、今年こそは心安らかに、
“日々是好日”と行きたいものが、なかなか問屋はそうは卸してくれません。
世の中、あらゆる物が値上がりし、買い物時、財布との相談が続きます。電気代にガス代に水道代、これらはライフラインに

直結の問題です。生鮮食料品はじめあらゆる食品が値上がりしました。拳甸の果て、私たちの主食のお米も品不足からの値上がりです。10円や20円単位ではありません、1.5倍から2倍へ。少しでも安く、とうとう米国やベトナム等外国米が店頭に並びようになりました。昔あった“タイ米”をめぐる騒動を思い出し

ます。国民の経済的格差拡大気味のこの国、弱い層の人たちの生活が益々厳しくなりつつ。
昨年は、国政や自治体レベルでも何かと選挙が話題となりました。立候補者のポスター掲示板が独占され、拳甸に選挙とは無関係な内容の掲示があったり、立候補者の街頭演説を明らかに妨害したり、違法紙一重の行

『混迷する世相に光明を』 社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

おーぶん 99号目次

P 1 「混迷する世相に光明を」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P 3 北総の里だより
・北総育成園
・笹川なすな工房

P 6 サービス向上委員会より
船橋圏内事業所職員
合同研修報告

P 7 各事業所冬だより
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ
・カメラアハウス
・けいよう
・ゆたか福祉苑
・グループホーム
・のまる



動の団体があったり、とにかく今までとは異なる異様な光景が見られました。投票行動も従来とは異なる傾向が明らかにになりました。SNSやYouTubeなどで候補者を映し出し、それとなく拡散し、候補者のイメージを短時間でより広く、より多くの人にすり込む手法が取り入れられました。ただ、問題はその伝えられる内容が事実なのか、或いは疑わしいものなのか。真偽の検証もなく、一方的に蔓延してしまい、ムード、雰囲気だけで判断し、そこで投票行動に結びついてしまうことです。情報が多気味の今日、より慎重さや熟慮のほどが必要なのではないでしょうか。

他にも、ウクライナやパレスチナガザ地区、そしてミャンマーなどでの戦火、虐殺と破壊。住民の流血と涙の報が日々届きます。世界中から異常気象からの天変地異、様々な災害の報も聞こえます。この国は、世界はどこへ向かうのか、先に待つものは何でしょうか。不安に駆られてしまいます。

そのような折、昨年一つの明るいニュースが私たちにもたら

されました。「日本原水爆被害者団体協議会(以下「被団協」とす。)がノーベル平和賞を受賞しました。1956年から、広島と長崎の被爆者を中心に、核兵器の廃絶と国による原爆被害への補償を求める運動を掲げ、活動が開始されました。

私の田舎は、有明海を挟み長崎県と向かい合っています。海向こうは島原市になります。小6春の修学旅行の行き先は、長崎と雲仙への一泊の旅が定番でした。

長崎市に着いた私たちが先ず訪れたのが、原爆被害の実相を伝える会館でした。そこで目に入ったのが、凄まじい熱風で身体を焼かれた被爆者、その顔を口ウ細工でクロイド状に再現したものでした。そのリアルさ、異様に言葉が失いました。高熱に溶けて潰れたガラス瓶、爆風になぎ倒された家々、黒こげとなった遺体の写真、それら一つ一つに衝撃を受けながら見入りました。このことが、私にとっ

ては一番の修学旅行の思い出となりました。

この立場をとりません。この論は、核兵器の保有を前提とします。互いに、使用可能な核兵器を持つことにより、結果互いにその使用を控える、と。被団協の意思は明確です。核兵器の保有そのものを否定します。地球上から全て廃棄すべき。人類と核兵器は共存できない、共存させてはならない、と。

世界で唯一、原子爆弾による塗炭の苦しみ、地獄を見たこの国、広島と長崎で一瞬にして約20万人以上が命を絶たれ、倍する人たちが火傷や怪我、放射能に苦しめられました。「この惨劇は私たちが終わりにしなければ、二度と繰り返されることがないように」。被団協の受賞は、この思いを人類が共有することを促しているようです。今、社会が分断され貧富の差が拡大され、明日のあるべき姿が見え難くなっています。こんなときであるからこそ、人々が平和裡に共存することの意義を問う、被団協の受賞が明るく、尊く思えるのです。

いまひとつ、同時に思うこと。長崎に近藤原理さんという先駆的に障害福祉を実践された、私

たちの大先輩がいらっしやいました。北総育成園前園長武井さんはこの近藤先生に導かれるように、その生き様や教えを大切にしています。また、近藤先生はこの原爆被爆により、お兄様を亡くされました。原爆投下後の瓦礫と焼け焦げた遺体や負傷者の累々と横たわる長崎の町を、お母様とともにお兄様を探し回り、数日後やっと遺体を発見、二人してお兄様を茶毘に付された、そんな凄惨な悲しい思い出を記していらっしやいます。

近藤先生のお言葉に「平和なくして福祉なし」があります。重い言葉であり、目指すべき方向を教えていただいているようです。障がいのある方々と共に泣いたり笑ったり、そんな日常は平和であればこそ、です。

どうぞ、今年が皆様にとりまして安寧な時間と空間で満たされますように。そして、皆が明日を信じられる社会でありますように。



北総の里だより

北総育成園

『令和7年新年会』

施設長 白樫 久子

新年あけましておめでとうございませう。お陰様で、北総育成園利用者さん職員さん共に良い年を迎えることが出来ました。今年も皆様のご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年1月6日(月)、利用者職員の新年会を行いました。全員参加で29人乗りのバスや15人マイクローや医務ワゴンなど園車7台を駆使し、1時間以上かけての大移動です。3往復する車両もあります。北総から約3kmの会場まで、安全面に十分配慮して移動介助を行いました。何より職員間の連携が重要で、この移動も新年会の大切な一部です。もちろん「車に乗る

込む利用者さんの楽しそうな笑顔があります。企画してよかったと喜びがこみ上げてきます。



オープニングの「獅子舞」は初めての試みでしたが、青野課長・猪田課長、米川主任が、なかなかの演舞を披露してくれ、会場は大盛り上がり。獅子に頭を噛まれ、握手をしたり、一緒に写真を撮ったりと、今年の皆さんの健康と幸せを祈ってくれました。



皆さんの健康と幸せを願う「獅子舞」パフォーマンス



堀川さんと鵜野実行委員長の元気な「乾杯」の発声の後は、待ちに待った会食です。ビールやジュースを注ぎあい、「今年もよろしくお願いします」、「一緒に頑張りましょう」、「楽しく、元気に過ごしましょう」と、はつらつとした皆さんの声が聞こえてきます。北総の皆さんと楽しい時

間が過ぎて幸せだとつくづく
 思います。現在車椅子の方は15
 名、大半の方は歩行介助が必要
 です。またお食事も刻み食やと
 ろみ食の方も多くなり、それぞ
 れに合わせてご用意いたしました。
 若い利用者さんもありますが、
 平均年齢57歳の北総の今。70歳
 代80歳代の方も増えました。「齢
 を重ねて輝いて生きる」。お一人
 お一人の「役割と出番のある暮
 らし」。共に支えられ支えあつて
 今年もかけがえのない一年にし
 たいと思います。



利用者、職員
 全員揃って乾杯！

各作業班からは、舞台上上が
 って「新年の抱負」を披露して頂
 きました。様々な工夫や趣向も
 あり、カラオケの歌声も響き、ま
 すます皆の笑顔が輝いていきま
 す。



各作業班から新年の抱負、今年も元気に仕事をしましょう！

職員パフォーマンスは、実行
 委員さん達が素晴らしい「書初
 め」をご披露くださいました。し
 ばらく北総の館内に飾ってあり
 ますので、ご来園の際はぜひ、ご
 覧下さいませ。



職員による「書初め」披露

こうして全員参加の新年会を
 5年ぶりと開催することができ
 ました。以前は、地域の方々・保
 護者の皆様もお招きして、笹川
 なすな工房さんと合同で行って
 いました。年の流れとともに、も
 う200人を超える新年会の開催は

難しく、今回は北総の利用者職
 員100名で企画しました。職員さ
 ん達の心配りも細やかに、利用
 者さんに対して良いおもてなし
 ができたと思います。
 時代とともに、色々と変わる
 こと変えることが増えてしまし
 ました。様々な状況に合わせる柔軟
 さと日々の学びの重要さを実感
 しています。本年も「一期一会一
 輪の花」「働くことと生きること」
 を大切に、職員一同、良い支援を
 積み重ねて参ります。どうぞよ
 ろしくお願い申し上げます。



笹川なずな工房

『新年の抱負』

製パン班担当 宮本 裕子

「おはようございますーす！」
笹川なずな工房の朝、気持ちの良い挨拶が聞こえてきます。パン班の裏作業場で作業を進めていると、通所された利用者さん達の、ハツラツとした声に手を止め挨拶を交わす至福の時、“さあ今日もがんばるぞ！”と元気を貰います。

私は、入職し1年3か月が経ちました。なずな工房では、生活介護の向上と就労を目指す利用者さんが家庭から通所されています。私が所属する製パン班では、就労継続支援B型の利用者さんが所属され、メンバーも若く将来就労を目指しています。「僕は大人だから頑張ってるよ」とHさんからの言葉です。大人として働くことや工房での作業の先には就労という目標を抱き、一人一人が意識を高く持ち作業に取り組ん

でいます。私自身、就労支援事業とパン製造の仕事は未経験であり、一からのスタートでした。まずは仕事を覚える事が支援への第一歩。パン生地に触れ失敗や経験、試行錯誤を重ね、自分自身の作業のレベルアップを図る事で、利用者さんへの支援向上に繋がる事を意識した一年でした。



冬の縁日 2024

パン生地は気温や湿度、環境の変化に敏感です。その為、丁寧な観察と作業技術が必要となります。この点は、利用者さん一人一人に合わせた支援を考える私達の仕事と通じる部分があると感じました。利用者さんの個性、特性、環境、様々な背景を想像しながら、その方にあった支援や作業提供へと結びつけられる様、共に作業を行う中で観察力を大切にしたいと思っています。



クロquetteパンが焼きあがりました

パン製造では、商品になるまでに様々な工程があり、利用者さんの特性を活かした作業を細分化した提供が行われています。作る・運ぶ・梱包・検品・道具を洗う等、一連の作業を分担し、

個々の特性に合わせて手際よく仕事をこなす流れはまさにチームプレーです。

この道20年のNさんは、発想力の豊かさ、繊細な技術、まさにパン職人です。マイペースですが袋入れは皺一つなく綺麗に梱包してくれるKさん、計算が早いRさんは製造数を数えてくれます。想いを上手く言葉で表現できない方は仲間が代弁してくれ、沢山の個性が合わさりながら一人一人の長所を活かし、チームワークで作業が進められています。また、仕事中はミスを防ぐ為、自分の役割に対し報連相が徹底されています。

それは社会に出た時、円滑なコミュニケーションを築く為にも大切なことでもあり、利用者さんたちの働く姿勢から日々学ばせていただいている毎日です。Aさんは「〇〇やってみてください！」と積極的に仕事に取り組み姿勢をいつも見せてくれています。就労に向けて多くの技術を身に付けたい気持ちは一緒。その想いと特性とをどの様に折り合いをつけながら支援へと繋げて行けるかが私たち支援員の課題でもあります。

作業終わりに「今日は〇〇ができたよ!」「またやります!」と報告してくれるAさんの仕事への想いや意欲を大切にこれからも様々な作業経験を重ねて自信をつけ、将来の選択肢が広がる支援へと繋げて行ければと思います。



マフィン沢山出来ました

新年を迎え、地元のいちご園さんからの注文が本格的になっていきます。パン製造と合わせ、スイーツならではのマフィン、クッキー、様々な焼き菓子等、シヤムの製造数も格段と多くなります。地域の大切なご縁に感謝し、なすな工房一丸となり力を合わせて丁寧一品一品を製造したいと思えます。

各販売では、お客様と触れ合い、自分達の製品が認められている事を感じ、作業への励みや意欲向上へと広がる機会になります。感謝の気持ちを忘れずに丁寧な仕事と食品を扱う責任感を持ち、衛生面の徹底と安心で安全な、物価高騰に負けない美味しい製品造りを意識して作業に取り組みたいと思います。

退勤時、Hさんが今日も「小柳ルミ子に似てるよ!」と言ってくれる一言に、ほっこりと癒しの時間を頂きます。これからも利用者さんと精一杯に頑張る作業を通して、御家庭との連携を大切にしながら、一人一人に寄り添った温かい支援を心がけたいと思えます。

今年も宜しくお願い致します。



2025年も
よろしくお願ひいたします

サービス向上委員会報より 船橋圏内成人事業所職員研修報告
『意思決定支援』について

サービス向上委員会 委員長 ゆたか福祉苑 山田 朝広

今年度は、職員の支援マニュアルの中に「意思決定支援」を盛り込んだこともあり、年間を通して「意思決定支援」について研修等を実施して学んできました。

第1回目として、意思決定支援ネットワーク協会の副会長である弁護士の水島俊彦先生にお聴きました。

そして今回、第2回目として、令和6年11月27日、ゆたか福祉苑にて、両キッズを除く船橋市内6つの事業所職員の合同研修を行いました。

講師には、現場を経験されたことがある独立行政法人国立重度障害者施設のみみの園の保科華様と桑原さやか様にお越しいただき、意思決定支援についての講義とグループワークを行いました。

今回の研修は、第1回目の研修を受けての実践編という事で、実際に支援する現場での意思決定支援のポイントや具体的な方

法、記録の重要性等々をご講義いただき、意思決定支援の重要性を再確認いたしました。

今後、現場でどのように実践していくか、焦点を当てて支援に取り組んでいく所存です。



講師のお話しに
しっかりと耳を
傾け



ディスカッションも
活発に行いました



とらのこきッズ



12月に入りだんだんと寒さも厳しくなってきましたね！

先日、総合防災訓練を行いました！あいにくの雨となり、職員の消火器を使った訓練は中止となりましたが、消防車の見学や実際に乗車させてもらい写真撮影を行いました★普段できない体験にワクワク・ウキウキたぐさんの笑顔が見られました😊



園庭で
ピクニック♪



とらのこキッズでは、10月から月に一度各クラスでおやつパーティーを行なっています！園で食べるお菓子はそれはまた格別！みんなおやつパーティーの日を心待ちにしています☆



今年も一年ありがとうございました！
2025年もよろしくお願ひいたします！



さざんかキッズ

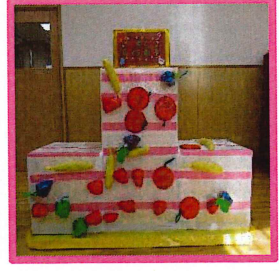
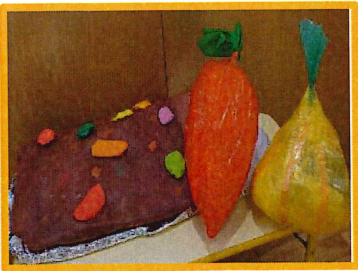
12月といえばクリスマス！さざんかキッズでもクリスマス会が行われました♪

クラス毎に様々な出し物が行なわれ、大きな野菜でカレーを作ったり、フルーツを取ってケーキに親子で盛り付けて大きなクリスマスケーキを完成させたりしました。バイキンマンにつかまってしまった王様を助けに勇気をもって立ち向かう姿も見られましたよ!!



25日に行なわれたクリスマス集会ではパペットシアターが行なわれ、みんなが大好きなアンパンマンたちが踊ってくれました。その後サンタさんとトナカイさんが登場!!プレゼントに大型絵本の「おやおや、おやさい」を持ってきてくれました。みんなで楽しく鑑賞した後はクラス毎に記念撮影♪笑顔でサンタさんとハイタッチをしてしめくくりました!!

(サンタさんの正体が実は理事長先生なのはヒ・ミ・ツ)



カメラリアハウス



☆クリスマス会☆

開所日にクリスマス会を行いました☆ちぎり絵で作った手作りツリーやイラストなどで飾り付けをして雰囲気もばっちり！クリスマスには欠かせないプレゼント交換では、各々でプレゼントを用意し、ビンゴで上がった人から選んでいくという流れでなかなかビンゴにならずに頭を悩ませている方もいましたが、プレゼントをもらい皆さん喜んでいました！



♪忘年会♪

12月最後の週、久しぶりにカラオケで忘年会を行いました。コロナ禍でなかなか行けなかったので、皆さんとても楽しみにされていました♪思い思いに歌われ、マツケンサンバが流れると映像を見ながら踊る方もいて大盛り上がりでした。皆さん、今年もお疲れ様でした☆



けいよう shop

けいよう

みなさん、けいようshopをご存じですか？
なかなか販売の機会がなく、利用者さんが頑張って作り上げた作品が皆さんの手に渡ることが出来ないのはとても残念です。

そこで、けいようの通用玄関に小さなショップを設けています◎近くにお寄りの際は是非、けいようshopをのぞきにきてみて下さい！



ゆたか福祉苑



身に染みる寒さが続き、温かい日差しが待ち遠しい時季ですが散歩や室内活動など、楽しい毎日を過ごして頂けるよう、ホールにクリスマスツリーも飾り、季節を楽しんで頂けたらと思っております。

年末には各班でクリスマス会や忘年会を行い、賑やかな雰囲気
で皆様の盛り上がった様子をご紹介しますと思います。



のまのまホームズ

インフルエンザが猛威をふるっています。そんな師走ですがグループホーム“にこにこ”ではささやかではありませんがクリスマス会を行いました。

プレゼントはタオルやスリッパといったホームで使用できるものでした。みなさま喜んでいただき大変嬉しく思います。

「ご利用者様にホームの生活がもっとと質問をしたところ」

「にこにこホームの生活楽しいー!」飯もおいしく幸せ♡と

という言葉をいただけましたこと、この仕事のやりがいを感じます。

これからもしご利用者みなさまの生活がより豊かになるよう努めて参ります。





のまる

12月24日のまるでは、毎年恒例のクリスマス会を開催しましたので、その様子を紹介したいと思います。

今年のクリスマス会では、スタッフが輪投げの棒役になり利用者様一人一人に投げて頂く、輪投げゲームを行いました。輪が通るかは棒役のスタッフ次第：では、ありましたが、皆さん上手に輪を投げて下さっていました！笑い声や笑顔で楽しんでいる姿が沢山あり、各ユニット盛り上がっていました。

ゲームの後はツリーに飾ってあるチョコプレートをお一人ずつ選んでもらいサンタさんからプレゼントがありました。

そして、皆さんが楽しみにされている昼食はフライドチキン・ポテト・シュノーベーズ・シャンメリー・ケーキなどの豪華なメニューが並び、皆さん美味しそうに召し上がっていました。皆さんの笑顔を見る事が出来て私たち職員も、とても嬉しく思います。今後も利用者様の楽しみが増える行事を作っていきたいです。

寒いが続いていますが引き続き感染対策に努め、皆さんと暖かい春を迎えたいと思います。今年度も宜しくお願い致します。

